

令和6年度 ハッピーハート真砂 自己評価総括表

保護者評価実施期間:令和6年10月1日~10月31日 保護者対象者数:32 回答:32

従業者評価実施期間:令和6年10月1日~10月31日 従業者対象者数:7 回答:7

	事業所の強みだと思われること (より強化・充実を図ることが期待されること)	工夫していることや 意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが楽しみに事業所に通えていること	子ども同士の関りが深まり、そこから学びが生まれるような環境作りを行っている。子どもたちの「やってみたい!」を引き出せるよう、グループ分けや活動内容を練っている。子どもたちの発達に応じて親しみやすい課題を提供している。	子どもたちの成長に合わせて、さらに活動内容を工夫していく。より一層主体的に活動できるように、継続して取り組み、選択性がある部活動のようなものを取り入れていきたい。
2	保護者の方のご理解とご協力	連絡帳や対面で子どもたちの成長の様子を丁寧にお伝えするよう心がけている。ご家族からの相談にも迅速な対応を心がけている。必要に応じて改めて相談できる時間を取ったり、電話やラインなども活用してお話をうかがっている。	現在の取り組みを今後も丁寧に続けていく。イベントや保護者会などを企画し、保護者間のつながりの場も作っていただけるとよい。
3	職員の子どもたちへのまなざし	子どもたちの日々の変化、成長が感じられる出来事を職員間で共有しあい、今まで気付かなかった子どもたちの新しい魅力を再発見できるような場を設けている。	今後も子どもとの日々のコミュニケーションを大切にす。毎日のふりかえり、研修の機会等を通じ、子どもたちへの理解を一層深めていく。

	事業所の弱みだと思われること (事業所の課題や改善が必要だと思われること)	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や 工夫が必要な点等
1	空間の有効的活用	子どもの成長に伴って、使われていない物や有効に活用できていない空間が存在しているが、それらを整理する時間を定期的に設けることができなかった。	現在使われていない物を処分したり、空間のより有効な使い方を検討する為のまとまった時間を設ける。定期的な整理整頓の機会を予定に組み込む。
2	職員の働きかけ	送迎等で子どもとの関りの場面が固定してしまうことで、特定の子どもたちとの関りが希薄になってしまうことや、外出活動の経験不足から、子どもたちの次の行動を予測しての働きかけが不十分になっていることがある。	「どのような子どもの動きが想定されるか」など研修等でシミュレーションする機会を設け、実践に生かしていく。
3	職員の情報発信力	「聞いてみようと思ったが忙しそう」などの理由で子どもへの対応の不安、悩みなどをすぐに他の職員に相談することができない職員もいる。また「間違っているかも」「否定されるかも」といった理由で支援方法等についての提案を積極的に行えない職員もいる。	一人ひとりの意見が反映しやすいように、記述式で意見を収集するよう工夫すると共に、対面でのやり取りでも必要な意見を述べるができるように研修への参加の機会を設けていく。